

島根大学プロジェクト研究推進 機構 『特定研究部門』		平成24年度	年度報告書	提出日 平成25年2月15日
① プロジェクト 名	寧夏プロジェクト			
② プロジェクトリーダー	関耕平	所属	法文学部	
		電子メール	sekik@soc.shimane-u.ac.jp	
③ プロジェクトの概要 (プロジェクトの最終年度における到達目標を簡潔に記入してください。)				
<p>①島根大学と寧夏大学とによって2004年3月に開設された島根大学・寧夏大学国際共同研究所を拠点とする国際的な共同研究を推進するとともに、若手研究者の研究・教育を実施することを目的とする。各研究メンバーがそれぞれテーマに沿って研究をすすめるスタイルをとっているが、1) 専門分野横断型かつ国際共同研究の実施による「環境負荷低減型の新たな技術の定着と地域社会像」の設計、2) 新たな技術と地域社会像を寧夏回族自治区の具体的な地域においてモデル的に実践・検証し、3) 地域社会への実装化・定着させるための課題を抽出する、という以上3点をメンバー共通の研究目標として設定している。こうした研究目標を担保するため、研究会の開催や日中国際セミナーの開催を定期的に行っている。</p> <p>②島根大学・寧夏大学国際共同研究所は、島根大学における唯一の国際共同研究機関であり、さらにいえば、中国西北部に国際共同研究の拠点を構える日本でも稀有の存在である。この先進性を活かし、国際的な研究拠点としてのみならず、島根県・松江市（それぞれ寧夏回族自治区と銀川市との交流を実施）と連携をとって、国際交流関連の事業を実施することも可能である。実際に、県・市と連絡会を開催して連携をとり、地域・行政・企業をはじめとした「国際レベルでの産官学連携・協力」をより実質化していくことも視野に入れて活動している。</p>				
④ プロジェクトのメンバー及び役割				
氏名	所属(職)	本年度の役割分担		
関耕平 (プロジェクトリーダー)	法文学部准教授	研究プロジェクト総括 (寧夏における循環型都市形成)		
伊藤勝久	生物資源科学部教授	研究プロジェクト担当 (農村におけるソーシャルキャピタルと地域経済活性化)		
小林伸雄	生物資源科学部准教授	研究プロジェクト担当 (条件不利地域における農産物生産技術の改良)		
一戸俊義	生物資源科学部教授	研究プロジェクト担当 (ヒツジ生産と農村の生活改善)		
谷口憲治	生物資源科学部教授	研究プロジェクト担当 (農村開発と小規模金融)		
足立文彦	生物資源科学部講師	研究プロジェクト担当 (条件不利地域における農産物生産技術の改良)		
米康充	生物資源科学部助教	研究プロジェクト担当 (寧夏における森林資源の回復)		
上園昌武	法文学部教授	研究プロジェクト担当 (グリーンエネルギーの導入政策)		
桑畑恭介	連合大学院・博士課程	研究プロジェクト担当 (農村における労働力移出問題)		
井口隆史	生物資源科学部名誉教授	研究プロジェクト担当 (農村における労働力移出と帰農者の経済行動)		
劉海濤	連合大学院・博士課程	(農村開発と小規模金融活動の分析)		
保母武彦	島根大学・寧夏大学国際共同研究所顧問	(農村コミュニティと地域振興政策)		

⑤ 本年度の研究計画および研究成果（計画内容に沿って、今年度の研究成果を簡潔に記入して下さい。）

年度計画	研究成果
<p>研究の目的は、寧夏南部山区において、「環境負荷低減型の新たな技術の定着と地域社会像」を提起し、これを定着させることで、持続可能な生活様式と環境負荷軽減の取り組みを当該地域に根付かせることである。そのため以下の4領域を中心に現地調査を行い、モデル地域での実践へ向けてカウンターパートとの研究交流を強化する（国際セミナーの開催）。</p> <p>① 農牧業技術の地域適合性と普及可能性：節水型農業技術・地域環境適合型放牧技術の開発</p> <p>② 6次産業化による高付加価値化：農畜産物生産・流通・加工の統合、農民小金融による高付加価値化</p> <p>③ 資源循環技術・体制の適合性検討と普及可能性：農業用廃プラスチックの回収・カスケード利用</p> <p>④ エネルギー構造の転換促進：従来型の太陽熱利用の一層の普及（反射型集熱器、太陽熱温水器）</p> <p>これらの研究状況を統合して、現地地域での具体的な実践分野を検討する。</p>	<p><u>①基礎調査の実施</u> 2012年6月に日本側から中国側への調査団を派遣し、関連分野についての基礎調査を実施した。カウンターパートについても4-5年の長い期間の付き合いがあり、充実した調査を実施できる体制が定着しており、充実した調査を実施できた。</p> <p><u>②研究交流の実施と展開：日中国際セミナーの延期</u> 2012年10月に、島根大学において開催予定であった日中国際セミナーが直前に延期せざるを得ない状況になったため、今年度はセミナー開催を実施できない事態となったが、2013年5月に開催予定である。セミナーについてはJICAからの旅費支援を受けることが決まっており、セミナー参加校は飛躍的に増加する予定である。これまで交流したことのない中国西北部の大学も参加予定であり、新たな学術ネットワークが大きく展開されつつある。</p> <p><u>③外部資金の獲得：科研費基盤(B)代表：伊藤勝久</u> 本プロジェクトの成果をもとに、科学研究費補助金基盤(B)が採択された。本年度は、本プロジェクトとともに連関させながら、相乗的に研究を進めた。</p> <p><u>④関連資料・書籍の購入等、共同利用施設基盤充実</u> 共同研究所(中国・寧夏)および島根大学分室における関連資料や書籍の購入・充実・整理を図った。また、これまでの研究成果の翻訳作業をおこなった。</p>

⑥論文・その他特筆すべき成果

本プロジェクトと関連する研究で公表された論文やその他特筆する成果について簡潔に記入して下さい。

①共同調査の実施

6月に実施した共同の寧夏回族自治区における現地調査は、同時に開催したセミナーにおいて日中双方の研究報告をして、カウンターパートとの連携を深めることができた。

②研究交流の実施と展開

今年度のセミナーは島根大学での2012年9月開催予定を順延という形にせざるを得なかった。2013年5月に島根大学で開催予定である。また、今年度の(2013年順延開催)セミナーにはJICAによる旅費支援が決定しており、JICAとのつながりがある中国西北部の大学が多く参加する予定である。

上記新規参加大学のひとつである西北農林科技大学は中国でも中国農業大学に次ぐ農林系の大学であり、6月の合同調査と合わせて、本プロジェクトメンバーが同大学に訪問し、今後の研究交流の開始について協議をすることができた。

以上のように、今年度は、新たな大学との大学間交流や研究交流の展開に向けて進展が見られた。

③外部資金の獲得

本プロジェクトの成果に基づいて申請したいかの研究計画が採択され、本プロジェクトと連関させながら研究を実施している。

文科省科学研究費補助金 基盤(B)「中国低開発農村の持続可能な新システムの形成と定着に関する研究」
[研究期間:2012-2014年][第1年度目]:2012年度:5720千円(総額:1300万円)

研究代表者:伊藤 勝久(国際共同研究所研究所 所長)

③メンバーによる関連業績

セミナー開催後にまとめるプロシーディング集において、本プロジェクトの成果が盛り込まれるほか、他メンバーの研究成果は、島根大学・寧夏大学国際共同研究所の年報に掲載予定である。

また、若手研究者育成の観点から、以下の博士論文が挙げられる。本プロジェクトによって現地調査等を実施した成果が盛り込まれている。

劉海涛『中国における農村資金需要に対する小額金融の役割に関する研究』鳥取大学連合大学院農学研究科博士論文、2013年3月。